

ドクターヘリ出動のための レーダー停止要請を米軍拒否

救急患者の搬送17分間遅れ 過去2度にわたって、停波要請に応じず

5月15日、京都府伊根町で起きた交通事故の救急患者を搬送するドクターヘリ出動のため、宮津与謝消防本部が米軍レーダー基地にレーダーの停波要請を行ったところ、米軍がこれに応じず負傷者の搬送が17分間も遅れる重大な事態が発生しました。

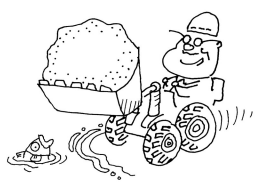
さらに、2015年の1月と3月にも米軍が停波要請に応じていないことも明らかとなりました。

停波は周辺自治体と米軍の約束

米軍が、ドクターヘリ出動のため要請に応じてレーダーを停波することは、京都府をはじめ京丹後市、伊根町など関係自治体と米軍との間で確認された厳正な約束です。

人命にかかわる約束破りを繰り返す米軍は、人命を軽視し、住民の命と安全安心を脅かす存在以外の何物でもありません。

米軍基地拡張工事（二期工事）でも約束破り繰り返す



4月から、米軍レーダー基地の拡張工事（二期工事）が始まっていますが、地域住民には何の説明もありません。また米軍は、「原則として平日以外の工事は行わない」約束を破り、平日以外でも工事を行っています。

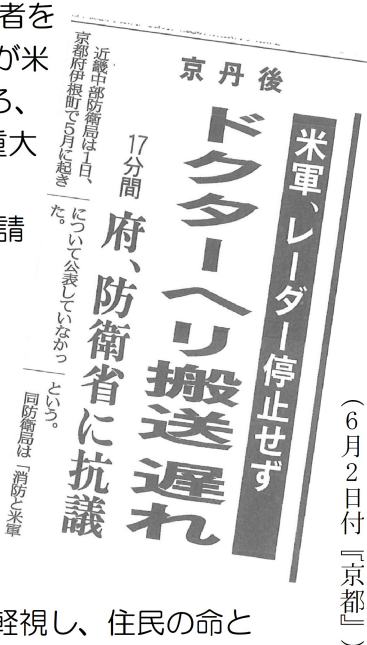
5月15日には、三崎京丹後市長が防衛省に対して「住民の信頼を裏切るもの」と抗議。ところが米軍は、市長の抗議を無視して、5月19日（土）に工事を強行する始末。これに対して京丹後市が、同日、基地に入って直接中止を申し入れましたが、米軍はこれに応じず工事を続ける暴挙を行ったのです。

さらに、基地の敷地以外の里道を掘削していることも判明しました。

西脇知事は、米軍基地撤去を強く求めるべき

これまで京都府は、「住民の安全安心が損なわれる事態が発生した場合は、米軍レーダー基地の存在を問うこともある」と表明してきました。西脇京都府知事は、米軍への抗議要請にとどまらず、レーダー基地の撤去を米軍並びに防衛省に強く求めるべきです。

約束破りの常習犯、米軍と防衛省
京都に米軍基地はいらない



あたりまえの政治を とりもどそう



森友・加計疑惑の交渉記録、改ざんされていた公文書、ねつ造データ、「ない」とされていたイラク派兵の「日報」など、つぎつぎと出てくる文書は、安倍政治の腐敗の深さを示しています。

安倍首相のウソをとりつくるために、閣僚や官僚がウソの答弁を重ねています。国会も民主主義もボロボロです。安倍政権が、政治の停滞を作り出しています。

正義が通る、あたりまえの政治、あたりまえの国会を取り戻しましょう。

国民は、
許さない
ウソと不正を

●「ウミ」を出さずに悪法強行なんて許さない

安倍首相の「お友達」だけを優遇する政治は、国民の99%を切り捨てる政治です。ウソがまかり通る政治は、国民をないがしろにする政治です。「ウミ」を出しきらなければなりません。

ところが、疑惑・不正にフタをしたまま、安倍政権は「カジノ実施法案」や「働き方改革法案」など悪法の強行成立をねらっています。

「働き方改革法案」は、何時間働いても残業代ゼロ、「過労死促進法」です。法案の根拠とされたデータの2割が異常データだったという、とんでもない法案です。

「悪法の強行は許さない」と声を上げましょう。

●「セクハラNO！」個人の尊厳を奪わないで！

財務省次官のセクハラ事件、さらに麻生財務大臣の「セクハラ罪と言う罪はない」など一連の暴言は、安倍政権の人権感覚のなさをあらためて示しました。世界じゅうの女性たちが「勇気を出して声を上げた人を一人にしない」と、「# ME TOO」運動を広げています。日本国憲法は「個人の尊重（憲法13条）」や「両性の平等（憲法24条）」を保障しています。憲法を守らない安倍政権に「改憲」を言いだす資格はありません。「憲法を変える」のではなく、「憲法を実現する政治」に変えましょう。

●安倍9条改憲NO！ 戦争への道をストップ！

内閣支持率が落ち込む中でも、安倍首相は「9条改憲」に固執しています。憲法9条に“海外で武力行使をする自衛隊”を書き加え、日本を「戦争しない国」から「戦争する国」へ180度変えようとしています。軍事予算優先で、福祉・教育予算はバツサリ削減。産業や研究・教育も軍事優先で、基本的人権も制限される…そんな「戦争する国」にしてよいのでしょうか。

朝鮮半島は「対話」を力に「平和」へ向かって歩みだしました。日本国憲法を生かした、平和外交の道こそ、日本の未来を拓くのではないのでしょうか。



安倍改憲NO！「3000万人署名」にご協力ください